

第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

■平成30年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

・避難勧告等の助言に資する洪水情報提供に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、よりの確な助言や自衛水防の促進に資する洪水情報提供のあり方の大枠を描き、その中で実用性の観点を踏まえて本研究の力点を置く部分を十分に吟味し、開発するシステムに求める洪水情報の精度や計算速度等に反映したうえで検討を進めて参りたい。併せて研究内容に見合ったタイトルに見直すこととしたい。

その他、洪水情報活用のレビューや他研究との連携など、ご指摘いただいた事項についても、十分に留意し、研究を進めて参りたい。

■平成 30 年度 第 2 回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

・地震を受けた拠点建築物の健全性迅速判定技術の開発（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・本研究課題は、迅速な復旧対応のための建築物への立ち入り可否を判定する技術開発を行うものであり、中小の地方自治体の庁舎を想定して、中層の RC 造建築物を主対象に検討を行うこととする。
- ・構造健全性判定基準の検討は、既往の研究成果も活用して基準策定につなげる。同基準を用いた判定システムの信頼性等の検討にあたっては、庁舎への導入を想定して経済性や維持管理等に配慮する。
- ・今回開発する判定マニュアルを用いて建築の専門家でない建物管理者等が行う判定を補完する技術的な支援として、建築の専門家である民間技術者の協力を得ることについて自治体の実情を踏まえて検討する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分に留意し、研究を進めて参りたい。

・地方都市における都市機能の広域連携に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・従来の公共交通の概念にとらわれず、地域コミュニティが主体となる移送サービスの取り組み等についても検討の対象に加えるとともに、進展の著しい移動技術の動向を踏まえて検討するように留意する。
- ・都市中心の施設を連携して整備するというシナリオだけではなく、訪問型のサービス供給等の代替案についても検討する。その際、高齢者や子育て世代を含めた全世代型の地域包括ケアシステムの例や、地域コミュニティが主体となって運営するサービス等の事例についても参考にして検討するように留意する。
- ・市町村合併によって広域化した都市の周辺部でも同様の課題があることを踏まえ、そこで応用も視野に入れて検討するように留意する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■平成 30 年度 第 3 回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

・沿岸域における環境保全技術の効果的活用のための評価手法の開発（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・アンケートの内容及び価値換算の方法を工夫し、結果の信頼度の向上に留意する。
- ・港湾の環境保全技術の生態系サービスの定量化に対しては、他分野の検討状況を踏まえて本研究のオリジナリティを明確にすることに留意する。
- ・地域特性を考慮する際の対象水域スケール及びアンケートの調査範囲のスケールについて留意して検討を行う。
- ・研究成果が実用性の高いものとなるよう、必要なデータの種類を限定した簡易版の作成や評価手法のマニュアル化等を視野に入れて検討を行う。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・コンテナ船の定時性向上に資するターミナル混雑度指標の開発（事前評価）

評価結果を踏まえ、下記の通り研究を進めて参りたい。

・緊急性を踏まえた実施方針

研究の初年度においてターミナル利用・沖待ち状況の把握ツールを開発すると共に、重要と考えられる混雑ターミナルについて、先行的に分析を開始することにより、早期に一定の成果を得ることを目指していく。一方で、平行して対象ターミナルを追加していくことにより、研究の精度や捕捉率の向上にも努める。

・指標の活用方策について

先行的に得られた成果を基に、指標の開発を進めつつ、港湾運営会社やターミナルオペレーター、荷主等との意見交換を踏まえて指標の活用方策の具体化を図るとともに、その将来的な発展性も視野に入れて研究を進めていく。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。